

地区より

高橋淳二さんの 遺作絵画展

四日町二丁目区自治会長 似内 宥治

去る4月12日から5月7日まで、花北振興センター展示ギャラリーで、当自治会員の故・高橋淳二さんの遺作絵画展を開催したところ、多くの皆様にご覧いただき大変ありがとございました。

遺作絵画展開催のきっかけは、昨年末に高橋さんのご家庭から絵画を希望する方に無償提供したいとの相談を受け、地元画家の功績を紹介しながら多くの皆様に作品を鑑賞していただいていたから公共施設、教育機関などの希望先に譲渡することにしたものです。

淳二さんは、27歳ころから独学で油絵を描き始め、フランスの素朴派の画家アンリールソーの刺激を受けて仕事の余暇に絵を描き続けてきました。

日本美術出版展最優秀作品賞や岩手芸術祭美術展洋画部門優秀賞等、県内外の美術洋画部門で数多く受賞しています。
今回展示したP120号等の大型作



品13点は教育機関、社会福祉施設、地区振興センターや集会施設に無償譲渡されたほか、「北の紅葉」、「極楽鳥のいる風景」は花北振興センター、花北コミュニティ協議会のご厚意で同振興センターに常設展示しています。是非、お出かけの上ご覧願います。

火災の時の炊き出し

四日町二丁目 松田 眞好

平成29年2月27日、午後4時頃発

生した住宅火災は、消防団員の懸命な消火活動により、

又当日は風が無かったことも幸いし、火災発生の住宅一棟の全焼と、



隣接する我家の窓ガラスの破損や、壁の一部と屋根の一部が焼ける程度で済みました。

不幸にして、ご主人が焼死しました。ご冥福をお祈りいたします。

実は、出火時刻に私と妻は志戸平方面の温泉に日帰り入浴をして帰る途中に、近所の方から携帯に「隣の家が燃えている」との連絡があり、気はせくが速度制限は守らなければならず、隣の席で妻は気をもむし。

桜台の交差点のところから我家の方向を見ると、炎と煙が立ち上がっているのを見た時は、我家も燃えてしまうと諦めました。

道は通行止めになっており、途中から車を降り走って家に着いたのですが、消火活動の状況から延焼することは無いと思いました。

警察の方から「大切な物を持って外に出なさい」と言われても、ただただ火災の状況を見ているだけでした。その時、手伝いに来られている方から「公民館を開けて、炊き出しの用意をしておくこと」

との話があり、赤く燃えている火を背にして公民館に急ぎました。



近所の人に、コンビニからおにぎりとお水を買って来るようお願いしました。

消防団員の方々は、汗のため寒そうにされておりました。

当地区でも自主防災組織をつくり、炊き出し班も決めていたのですが、どのような手順で炊き出し班の応援をお願い出来るか訓練をしていませんでした。

日頃訓練をしておくと必要を強く感じました。



◆編集後記

今年度は役員改選期にあたり、振興センター会長の大久保素志氏をはじめ、半数の方々が退任なされ新役員が選任されました。

新会長・各部会長のご挨拶と今年度の活動に対する抱負を伺いました。退任される皆様の長年の活動に対し、心より敬意を表します。

地区だよりでは、四日町一丁目一区の郷土の画家、高橋淳二さんの遺作展と贈された絵画についてご紹介がありました。

四日町二丁目からは、日頃の訓練の大事さを痛感させられるご寄稿を戴きました。

人間は、災害があっても「自分だけは大丈夫」と思っている方が多いそうですが、日頃の意識の持ち方で対応が大きく変わってくるのではないのでしょうか？
貴重なご寄稿に感謝申し上げます。

編集委員長 北山 六郎